

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 第39回北海道博物館大会 7月6・7日、端野町で開催

第39回北海道博物館大会及び平成12年度北海道博物館協会総会を端野町、端野町教育委員会、日本博物館協会北海道支部との共催で開催いたします。北見地方での開催は、昭和61年の北見市以来となります。端野町には町内の文化財の収集・保存の中核施設として昭和58年に開館した町立歴史民俗資料館があり、自然分野も含めた幅広い活動を展開しています。今回の開催も地元の端野町・端野町教育委員会、それに町立歴史民俗資料館協議会、町文化財保護委員会の全面的なご協力を得て準備を進めてきました。大会・総会の内容は以下のとおりです。

**会期** 平成12年7月6日(木)～7日(金)  
**会場** 端野町公民館(常呂郡端野町字二区488)  
TEL (0157) 56-2515

### 大会テーマ

「地域の自然と歴史に根ざした博物館・園活動  
—利用者の視点から—」

### 大会日程 7月6日(木)～1日目～

- ①受付 9:30～10:00
- ②開会式・総会・特別報告・表彰式 10:00～12:00
- ③昼食 12:00～13:00
- ④特別講演 13:00～14:30  
演題：北海道開拓・開発と自然環境のかかわり  
講師：専修大学北海道短期大学教授 俵 浩三氏
- ⑤シンポジウム 14:30～16:50  
テーマ：「地域の自然と歴史に根ざした博物館・園活動—利用者の視点から—」、司会：小樽市博物館館長 土屋周三氏、報告1「すべてのフィールドが博物館」、北網圏北見文

化センター協力会博物部会会長 伊藤公平氏、報告2「自分がもつ興味と博物館とのかかわり」、美幌博物館学芸協力員 羽根石晃彦氏、報告3「千歳川の自然と歴史を知る—学習、観察会とメディアの役割—」、千歳サケのふるさと館学芸員 高橋 理氏、報告4「多くの協力者に囲まれて—博物館を助けるボランティア活動—」、仙台藩白老元陣屋資料館学芸員 武永 真氏

- ⑥閉会式 16:50～17:00
  - ⑦懇親会 18:00～20:00
- 7月7日(金)～2日目～
- ①視察見学受付 8:30～9:00
  - ②町内施設等見学 9:00～12:15

屯田兵被服糧秣庫、鎖塚、緋牛内の大カシワ、端野町立歴史民俗資料館

バブル経済の崩壊以降の景気低迷が続くなか、税収の伸び悩みなどから地方財政の運営は深刻な状況下におかれ、地方自治運営が多い博物館施設も一層の簡素・効率化を至上命令とする事業見直しが迫られています。これに、規模の大小、公私立の別を問わず減少・低迷傾向にある入館者動向は博物館施設をとりまく状況を一層きびしいものにしていきます。しかし、このような時こそ、地域に根ざした博物館活動の原点に立ち返り、それぞれの施設の実績と現状を整理し、さらにそこから目指すべき方向をさぐり、構想・目的に近づけるための体制づくり、環境整備に取り組むことが重要です。その意味で、加盟館園のみなさんが一堂に会し、博物館をめぐる問題について語り合う年一回の大会は貴重な時間でもあります。

大会はまた、加盟館園の関係者の交流、情報交換の機会でもありますので、限られた日程ではありますが、今大会を大いにその場として活用していただければ幸いです。

## =大会開催地=

## 端野町でお待ちしています

端野町は網走管内のほぼ中央に位置し、西は北見市、東は美幌町に隣接しています。人口は約5,400人、面積も約163.55km<sup>2</sup>と、北海道の市町村の中では小さい方といえます。これまで北海道博物館大会が開催地された中では、一番小さい町での開催になります。

そんな小さい町での開催となったわけですが、お引き受けした理由がいくつかあります。

網走管内での開催が昭和61年第25回北見大会以来15年近くもなかったこと、もう一点は過去の大会に当資料館の関係委員と大勢で参加していることから活動が熱心であると誤解(?)されたことにあります。

もちろん委員の皆さんの活動は熱心で研修にも意欲的に参加されていますが、当館の活動は併設する図書館との兼務でもあり、恥ずかしながら活発とはいえません。そんな中でお引き受けするのも実際はためらわれましたが、委員さんに叱咤激励されながら開催地となる運びとなりました。

## 委員に叱咤激励されての開催

大会テーマを共に検討するとともに、「活動が不十分でも、これを良いきっかけにすべきだ」、「町民にも博物館活動を理解してもらおう」、「こんな小さい町でできれば、どんな町村でもできる。他の町村の自信にもなる」、「町としての歴史は浅くとも、端野町として誇りを持って伝えてきたものがある」等など、もっともな、あるいは妙な励ましを受けて全面的に協力をいただくことになりました。開催要項に「協力 端野町立歴史民俗資料館協議会・文化財保護委員会」とあるのは、こうした理由からです。

今は半分開き直りで、「活動が活発ではないといっても、少しはやっているぞ」「悪いところを見てもらって指摘してもらえばいいんだ」「多少は参考になるところもあるかもしれない」と一同開催準備に追われています。

特別講演の講師である俵先生には、ここ十年来端野町に植生するカタクリ群落の調査をお願いしています。20世紀最後の博物館大会として、北海道の開拓・開発と自然環境のかかわりを見つけ直すと同時に、人間の生活と密接な関係を持つカタクリや端野の話も交えながらご講演いただけるの

ではないかと期待しているところです。また、シンポジウムの報告者も協会事務局のご尽力で特色ある方々が揃い、サブテーマの「利用者の視点から」について、それぞれの立場から興味深いご報告をいただけるものと思います。

何はともあれ、端野町へ是非おいでください。

## ■端野町立歴史民俗資料館

昭和58年に開館し、屯田兵関係資料や農業関係資料を中心に展示しています。

実物の屯田兵屋や屯田兵の肖像画、蒸籠型のハッカ蒸留機などが見所です。



## ■旧野付牛屯田第四大隊第一中隊本部被服糧秣庫 (端野町指定文化財)

明治30年、31年に端野町に屯田兵が入地しましたが、被服や食糧の保存に使用されたものです。

明治37年に一区が払い下げを受け、移設して神社社殿として使用しています。

## ■鎖塚 (端野町指定文化財)

明治24年、網走集治監の囚人によって網走～北見峠間の中央道路(囚人道路)が開削されました。過酷な工事のため約250人もの囚人が犠牲になり、鎖塚の土饅頭もその墓とされています。端野町開拓の先駆けとして手厚く供養されています。

## ■緋牛内の大カシワ (端野町指定文化財)

このカシワの幹周は約5mもあり、株立が1本のものでは全国一で、樹齢は350年以上と推定されています。

平成9年から3カ年をかけて樹木医による治療を行っています。



(端野町立歴史民俗資料館 学芸員 大橋秀規)

## 『道南博物館施設ガイドマップ』 の発行にあたって

この度、道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、渡島・松山両支庁にまたがる道南地区の博物館・資料館等の施設を広くアピールし、各施設の見どころを紹介することを目的として『道南博物館施設ガイドマップ』を作製しました。

本マップには、函館周辺、松前周辺、江差、上ノ国周辺、日本海側、太平洋側の5つのゾーンに分けて、渡島半島の29の市町村の51施設について、開館時間や交通アクセス、展示の特色などの情報を掲載しています。また、地図上には各施設の所在地の他に、史跡や景勝地等も紹介し、利用者が道南の各施設を訪問する際のコース設定の参考となる、ロードマップとして利用できる内容になっており、学校五日制や生涯学習の推進の動きに対して、当協議会としても学習活動のニーズに対応して、郷土学習の参考として利用されることを念頭に置いています。

また、作製にあたっては会員館園からの情報や写真の提供はもちろん、協議会未加盟の施設・団体からも積極的な協力をいただくことができました。

## 道央ブロック研修会から

平成11年度道央ブロック現地研修会が10月20日(木)に小樽市の石原裕次郎記念館(以下裕次郎記念館)において開催された。

裕次郎記念館は、1991(平成3)年の開館以来年間利用者120万人を維持しており、その秘密を探ろうと企画されたこの研修会には道央ブロック10数館の職員が参加した。

知名度の高さだけで、年間120万もの人々を引きつけることができるだろうか。研修会においてその疑問を解く、あるいは、探ろうと参加した人が多かった。

以下、この研修会で得られた情報をもとに、裕次郎記念館が誇る利用者数の背景を探ってみた。

### 石原裕次郎の高い知名度による集客力

知名度の高さでは、50才以降の年代層に絶大なものがあり、この年代層が持つ、購買力、旅行等の行動力等が大きな要因となっている。

### ロケーションの良さによる集客力

館の立地が、ヨットハーバーの隣地にあり、停泊するヨット群で裕次郎と館のイメージを高めて

た。この事業を通して各施設・団体相互の運営上の連携が深まり、併せて道南の全ての館園の協議会加盟が促進され、より有意義な活動・交流が行えることを期待するものです。

そして何よりも、多くの方が道南の豊かな自然と文化に触れていただけるように、このマップがその一助となることを願うものです。



道南博物館施設ガイドマップ

(五稜郭タワー 企画係長 木村朋希)

いる。さらに、裕次郎記念館のヨットハーバーと思わせるような取り込みのうまさがある。建設計画の段階から周辺環境を非常にうまく取り込んでいた。

### サービス業としての基本を大切にされた姿勢

裕次郎という人物に一種あこがれの夢をいだいて利用者が来る。だから利用者がその夢の中に埋没していただくために、必要以上のレクチャーはしない(裕次郎記念館フロアマネージャー)。

利用者が何を求めて来るかを真剣に考え、そのために館として、どうすることがベストなのか。サービス業の基本がそこにあるとした館の姿勢。

### 接遇等職員教育の徹底による集客

新人職員には、接遇を主とした3週間程の研修受講を義務づけている。その成果は、先輩から新人へ伝えられ、いわゆる一流の受付術を身につけた職員が売券や案内業務に携わり、来館者に対する好印象の浸透につなげている。

なお、本研修会の詳細については、道央MUSEUMニュース第4号(2000. 3. 20)で道央ブロック、大島副会長より報告されているので参照されたい。

(道央ブロック理事 土屋周三)

**「発掘された日本列島2000」展開催！  
旭川市博物館で北海道初**

昨年マスコミをにぎわせた全国40遺跡約700点の出土資料が、今夏旭川市博物館に大集合する。この「発掘された…」は、文化庁が平成7年度から開催しており、今回で6回目。北海道では初開催となる。

主な出品資料は、【縄文時代】鮮やかな漆塗り製品を多量に出土した恵庭市カリンバ3遺跡の墓壇展示など、【弥生時代】起源論争に一石を投じた大阪府東奈良遺跡の小銅鐸など、【古墳時代】邪馬台国の都？—纏向遺跡の弧文板など、【古代】奈良県酒船石遺跡の亀形石の模型など、【中世】奥州藤原氏の居館日柳之御所遺跡出土の全国初の「村」印など、【近世】仙台城跡から出土した支倉常長の土産？ベネチアガラスなど。

また、この列島展とあわせ、アイヌ文化のポンペイともいえる火山灰に埋もれた近世アイヌの集落、千歳市美々8遺跡の木製品を展示する「アイヌの技をさかのぼる」を同時開催する。

旭川市博物館では、特別展示室に加えて常設展示室も使用、全館あげてこの列島展の開催にあたる。期間は7/30～8/26、入場料無料は全国でも旭川市博物館のみだ。

(旭川市博物館 学芸係主査 瀬川拓郎)



**日胆ブロックの活動報告**

日胆地区博物館連絡協議会では、昨年度の盛会裡に終了した「スタンプラリー99」に続き、本年度は移動展「日高・胆振の博物館紹介」を実施しています。

これは、加盟22館のうち11館の収蔵資料と、館の写真、解説パネル等、1館当たり計4点を展示する企画です。また、未参加の館につきましては、原稿が届きしだい順次展示品の追加を予定しています。

なお、移動展は5月14日(日)日高管内えりも町郷土資料館をかわきりに、胆振管内伊達市開拓記念館の最終開催日12月24日(日)まで、11館15日間づつの巡回展示を予定しています。

すでに各地区で実施されています移動展に比べますと、満足できるものではありませんが、やっと2歩目の前進と考えています。

皆さん、お近くにお越しのさいはぜひお立ち寄り下さい。

(門別町図書館郷土資料館 文化財係長 川内谷修)



移動展 日高・胆振の博物館紹介ポスター

## 「十勝・釧路・根室の博物館情報」 の発行について

道東3管内博物館施設等連絡協議会は、十勝・釧路・根室管内の24の博物館施設が加盟しているが、以前から情報の共有をどうするかが課題であった。これに先立ち、その連絡、周知の方法が、郵便、電話、ファックス、電子メール等どんな方法がよいかアンケートを実施したところ、現段階では、郵便という結論が出た。さらに内容であるが、あまり欲張らないで、まずは各館事業の案内を、一般の利用者に知らせる広報紙程度にし、網走の道立北方民族博物館が発行しているオホーツクミュージアムインフォメーション「OMI」を見本にしようということからスタートした。

会長・事務局は釧路市立博物館でやっているの、情報紙担当は帯広百年記念館と根室市博物館開設準備室が交互に担当することとした。4カ月毎の情報で年3回の発行とした。まず、各館から事業計画やお知らせを集め、A4用紙両面程度に編集し、原稿を作成する。この原稿を各館に郵送して、各館で必要部数だけ色紙等に印刷して、そ

れぞれの館で利用者に配布する。またこれを拡大して、ポスター等にして案内板などに掲示することにした。

この試みは、平成10年12月からスタートし、現在まで5号を発行している。今のところ一般利用者を対象にしているが、スタート前は、館同士の連絡を密にすることも考えられた。その方法も例えばインターネットでメーリングリストに書き込みをするなどが考えられたが、全館で環境が整わず、現在のような形に落ちついている。



(根室市博物館開設準備室 川上 淳)

## 平成11年度北海道美術館 学芸員研究協議会報告

平成11年度の総会・研究協議会が平成12年3月2日、3日の両日、道立近代美術館で開催された。道内の美術館学芸員等によって組織された当会の第8回目の研究会で、21館に所属する50名の会員のうち35名が参集し熱心に協議が行われた。

20世紀最後の年となった今年の研究協議テーマは「検証と展望・美術館と北海道の美術」。本道に初めての美術館が開館してから30年以上を経、今日まで各地の美術館がそれぞれ本道美術の歴史や現況に視点を当てた活発な活動を行ってきた。時代の節目となる今回は、主として展覧会における道内美術館のこれまでの成果と課題を明らかにし、次代の可能性を展望しようとの趣旨である。

第1日目の研究協議は、市立小樽美術館、道立帯広美術館、道立近代美術館の3館が自館の取り組みの事例を報告、地域の特性をふまえて調査研究の積み上げのなかでなされてきた展覧会活動や地域にゆかりの作家に対する事業の実例が紹介された。続いて協議に移り①北海道関係展覧会の調査

と分析②今後の北海道美術への取り組みの2点について意見交換が行われた。協議資料として配布された北海道関係展覧会調査表は会員所属館の展覧会実績を集約したもので、これまでに開催された400件を超える展覧会が分類整理された貴重な基礎資料となった。

2日目は、札幌在住の画家、枡内忠男氏による講演「私が見た北海道の美術」を聴講。戦前戦後を通じて本道画壇に身を置き作画活動を続けられた貴重な経験談には、参加者から次々と質問が出るなど意義深い内容のひとつとなった。講演終了後、本年度の総会を開催し全日程を終えた。



(北海道美術館学芸員研究協議会幹事 寺嶋弘道)

## 館 園 紹 介

### 枝幸町に新たな博物館オープン 「オホーツクミュージアムえさし」

平成11年10月、枝幸町に新しい博物館施設が誕生した。施設名は「オホーツクミュージアムえさし」。枝幸町の開基120年記念事業の一環として、枝幸町郷土資料館を移設したものである。

枝幸町郷土資料館は昭和62年の開館以来、郷土学習の中心施設として長く町民に親しまれてきたが、新しい生涯学習施設を求める声が高まり、5年に及ぶ準備期間を経て、昨年秋の開館へと至ったのである。

館名に「オホーツク」と冠したように展示内容は「オホーツク海」を基本テーマとしている。常設展示室の導入部にはオホーツク海の構造や流水のメカニズムを視覚的に理解するためにガラスを張った床面に展示資料を配している。展示はさらに自然と環境を扱った「オホーツクに生きる動物たち」のコーナーへと展開し、「オホーツクとともに生きる町」として枝幸町の歩みをまとめた郷土史の展示へと続く。

展示室のメインとなるのはオホーツク文化の竪穴式住居の復元である。一般的に「竪穴式住居」は「暗くて狭い」というイメージが浮かぶが、全長9m、高さ4.5mというオホーツク人の竪穴式住居の内部は広々としており、全く息苦しさを感じさせない。住居内はオホーツク人の生活を疑似体験してもらうことを目的としており、中に入ることが可能である。住居内部では、用意されているオホーツク人の衣服を着用したり、展示資料に触れたり自由に見学することができる。

「展示資料を見るだけでなく、実際に触れてみてほしい。」こうした事を意図して作られたのが「子どもミュージアム」という空間である。この展示コーナーは子どもたちや親子連れを対象に、

古代人の衣服を着たり、巨大な土器を組み立てたり、昔のお店で遊んだり、手足を動かしながら、郷土の歴史に親しんでもらうスペースとなっている。

子どもミュージアムに隣接するパソコンコーナーでは町市街地を一望するリモコン展望カメラや、枝幸町に関連するホームページの閲覧、図鑑ソフトによる調べ学習、約一千枚に及ぶ郷土の写真資料の検索など、子どもから大人まで幅広く利用されている。

当館には枝幸町が全国に誇る宝と言ってもよい資料が展示されている。それは国の重要文化財「北海道目梨泊遺跡出土品」である。

目梨泊遺跡はオホーツク文化期の遺跡としては最大級と言っても過言ではなく、総点数23万点に及ぶ膨大な量の遺物が出土している。出土品の中には当時の大陸や本州の人間集団との交流を示す貴重な資料が数多く含まれており、道内外からの注目を集めた。

この平成12年4月、目梨泊遺跡を代表する特徴的な資料319点が選定され、重要文化財として指定される運びとなった。当館ではこの「日本最北の重要文化財」を一人でも多くの方々にご覧いただくため、常設展示室の一部を改装し、すべての重要文化財を一般に公開している。

住 所：枝幸郡枝幸町三笠町1614番地1

電 話：01636-2-1231 FAX：01636-9-2121

E-mail：omesashi@poppy.ocn.ne.jp

常設展示室観覧料：一般300円、高校生100円、小中学生50円（団体10名以上、それぞれ200円、50円、20円）学校教育・社会教育・社会福祉関係団体の利用については無料

休館日：毎週月曜日・国民の祝日・年末年始・毎月末の火曜日（展示調整日）

開館時間：午前9時半～午後5時

（オホーツクミュージアムえさし学芸員 高島孝宗）



## 館・園の主な展覧会と普及事業

(7月～10月)

## 石狩

- 江別市セラミックアートセンター(TEL:011-385-1004)  
6.30～8.20「20世紀の日本陶芸」  
8.30～9.17「陶&くらしのデザイン展」  
10.21～12.10「鈴木のリ子の世界」
- 札幌芸術の森(TEL:011-591-0090)  
7.22～8.27「ブルックリン美術館蔵・印象派展」  
9.6～10.18「岡本太郎展」  
10.24～12.17「中根邸の画家たち」
- 北海道開拓記念館(TEL:011-898-0456)  
5.25～8.13 特別展「恐竜とアンモナイトの世界」  
7.4～9.7.12～16 移動博物館「北の職人」  
9.14～11.5 特別展「先史文化と木の利用」  
9.10 歴史講座「明治・大正期の博覧会と北海道」  
10.1 フォーラム「文化財をまもる」
- 北海道開拓の村(TEL:011-898-2692)  
8.5～6など「大道似顔絵描き」ほか  
8.26、10.21 講演会「開拓と移住ー富山県」ほか  
10.22「むらの自然観察会ー樹木ー」
- 北海道立文学館(TEL:011-511-7655)  
8.12～10.9 特別展「『北緯50度』の詩神たち」  
7.25～7.29、10.28～11.19「ファミリー文学館」
- 北海道立近代美術館(TEL:011-644-6881)  
7.8～8.13「北大路魯山人展」  
8.19～9.24「20世紀美術の巨匠」
- 北海道立三岸好太郎美術館(TEL:011-644-8901)  
6.9～9.3 所蔵品展「幻想の光景ー蝶と貝殻」  
9.8～11.7 所蔵品展「それぞれの青春」
- 千歳サケのふるさと館(TEL:0123-42-3001)  
7.15～8.31 夏休み企画展「ぎょ漁っと外来魚」  
9.2～11.30 秋の企画展「食材としてのサケ」

## 渡島

- 市立函館博物館(TEL:0138-23-5480)  
7.4～8.27 特別企画展「古地図にみる北海道」
- 市立函館博物館五稜郭分館(TEL:0138-51-2548)  
6.1～9.17 特別展「五稜郭」
- 北海道立函館美術館(TEL:0138-56-6311)  
7.2～8.11「エコール・ド・パリ1920」  
8.19～10.15「箱根寿保展」  
10.22～12.3「現代に生きる書」
- 南茅部町教育委員会(TEL:01372-2-5111)  
4.28～11.12「大船C遺跡速報展示室」
- 八雲町郷土資料館(TEL:01376-3-3131)  
8.1～8.15 特別展「勝山館と陶磁器」
- 開陽丸青少年センター(TEL:01395-2-5522)  
9.5「開陽丸青少年センター10周年記念事業」

## 後志

- 有島記念館(TEL:0136-44-3245)  
7.18～「いま見直す 有島武郎の軌跡」  
8月上旬～9月上旬「平成12年度 有島武郎講座」
- 北一ヴェネツィア美術館(TEL:0134-33-1717)  
7月～11月「貴族の食卓展」
- 小樽市青少年科学技術館(TEL:0134-22-0031)  
7.22～8.13 特別展「たんけん!水がつくった世界遺産」  
9.9「わくわく実験教室」
- 木田金次郎美術館(TEL:0135-63-2221)  
7.1～10.29 企画展示「木田金次郎の千石場所」  
7.16「第六回木田金次郎生誕祭」  
9.1～9.17「第六回ふるさとこども美術館」

## 空知

- 滝川美術自然史館(TEL:0125-23-0502)  
7.1～8.6「滝川110年記念 岩橋英遠展」  
8.11～9.17「タキカワカイギョウ展」など  
7.9「化石教室」  
8.1～8.3「化石サマーキャンプ」  
8.6、9.3、10.23「たきかわ自然ガイド」など
- 美唄市郷土史料館(TEL:01266-2-1110)  
8.4～10.29 特別展覧会「20世紀の美唄」  
9.3 体験学習講座「フィールドワーク」
- 三笠市立博物館(TEL:01267-6-7545)  
7.22～9.24 特別展「化石って、なに？」

## 上川

- 旭川市青少年科学館(TEL:0166-22-4171)  
7.25～8.27 特別展「ラ・ビレット展」
- 中川町郷土資料館(TEL:01656-7-2419)  
7～9月「地層観察教室」など
- 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館(TEL:0166-52-0033)  
6.1～7.30「朝倉文夫展」  
8月～10月「ふるさと旭川と彫刻」
- 名寄市北国博物館(TEL:01654-3-2575)  
7.25～9.3 特別展「開拓100年」  
9.15～10.1「木彫り教室作品展」  
10.13～10.15「MOA美術展」など
- 富良野市郷土館(TEL:0167-22-3864)  
9.17 講演会「キノコから見た富良野の森」  
7.16、10.15「富良野の自然に親しむ集い」  
7.27、8.3、8.10「夏休み子ども学習会」
- 北海道立旭川美術館(TEL:0166-25-2577)  
7.23～8.27「歌舞伎座の舞台と衣装展」  
9.8～10.15「歌川国芳一門の全貌展」  
9.8～10.15「AWAS!/インドネシアの新しい美術」

## 宗谷

- オホーツクミュージアムえさし(TEL:01636-2-1231)  
7月中旬「遺跡体験発掘」

## 網走

- 美幌博物館(TEL:01527-2-2160)

7.30～9.24 特別展「ふしぎで深い生き物たちのつながり」  
10.1～11.12「ふるさと作家展」

●北海道立北方民族博物館(TEL:0152-45-3888)

7.18～9.24 特別展「トーテム・ポールとサケの人びと」  
7.29 関連講演会

10.21 北方文化セミナー「蝦夷地の社会と文化」

10.26～27 北方民族文化シンポジウム「北方諸  
民族文化のなかのアイヌ文化」

●上湧別町ふるさと館J R Y (TEL:01586-2-3000)

10.28～10.29「宿泊体験」

**胆振**

●伊達市開拓記念館(TEL:0142-23-2061)

7月下旬～8月中旬 夏季特別展「武具甲冑展」

9月上旬～10月上旬「秋季特別展」

●苫小牧市博物館(TEL:0144-35-2550)

8.5～9.3 特別展「八王子千人同心と幕末の勇払」

7.29、8.20、9.17「観察会」

7.8、22、8.26、9.9、10.14、28「博物館クラブ」

●室蘭市青少年科学館(TEL:0143-22-1058)

7.30 特別展「科学の祭典」

●室蘭市民俗資料館(TEL:0143-59-4922)

7月末「夏休み宿泊体験学習」

10～12月「ふるさと講座」

**日高**

●門別町図書館郷土資料館(TEL:01456-2-3746)

8月～9月末 特別展「アイヌの狩猟」

●沙流川歴史館(TEL:01457-2-4085)

10.1～11.19 特別展「掘り出されたアイヌの遺物」

**十勝**

●おびひろ動物園(TEL:0155-24-2437)

7.27～28、7.30「サマースクール」など

8.4～8.20 特別展「エゾリス」

8.27「一日飼育係」 10.1「第24回裏側探検隊」

●忠類ナウマン象記念館(TEL:01558-8-2826)

7.22～8.27(予定) 特別展「ゾウとヒトの時代」

●北海道立帯広美術館(TEL:0155-22-6963)

6.23～8.9「機械時代1920s-1930s」

8.18～9.27「光と影ーレンブラント版画展」

10.6～11.29「美術はなにを記録してきたか」

8.18～11.29「十勝の新世代Ⅲ 伽井丹彌展」

●本別町歴史民俗資料館(TEL:01562-2-2142)

7～10月 体験学習「資料館まつり」ほか

8月 歴史講座「本別空襲を語る」

●幕別町ふるさと館(TEL:0155-36-3117)

10.1「ふるさと館20周年記念 ふるさと館祭」

**釧路**

●釧路市青少年科学館(TEL:0154-41-6225)

7月下旬～8月中旬「特別展」

**根室**

●標津サーモン科学館(TEL:01538-2-1141)

7～9月 特別展「忠類川のサーモンフィッシング」

10～11月 特別展「サケの自然産卵」

**事務局日誌** (平成12年4月1日～5月30日)

4月1日 事務局業務に対する協力依頼文提出  
(北海道開拓記念館宛)

4月28日 団体会員オホーツクミュージアムえさ  
し入会

団体会員函館市北方民族資料館退会

5月9日～30日 臨時職員雇用

5月11日 平成12年度道博協負担金納入の依頼

5月16日 平成12年度事務局業務分担決定

5月19日 第39回大会要項会員送付

5月23日 第39回大会後援等依頼文送付

平成12年度教育関係大会開催事業補助  
金交付申請

平成12年度協会表彰者決定通知

5月25日 平成12年度第1回役員会開催案内

5月26日 平成13年度道博協大会依頼文送付  
第39回道博協実行委員会開催案内

5月30日 道博協ニュース第69発行

**役員異動**

新年度の人事異動等により、次のとおり役員  
の変更がありました。

副会長 大内 格之氏

(札幌市円山動物園長 長尾 章郎氏後任)

理事 和田 英昭氏

(網走市立郷土博物館長 佐藤 明夫氏後任)

澤口 喜一氏

(市立函館博物館長 菅原 繁昭氏後任)

外山 旭氏

(滝川市美術自然史館長 田中 良吉氏後任)

赤松 守雄氏

(北海道開拓記念館学芸部長 三野 紀雄氏後任)

土屋 周三氏

(小樽市博物館長 鷺足 將成氏後任)

**平成12年度事務局体制**

事務局長 丹治 輝一

事務局次長 氏家 等、山田悟郎

事務局員 山田 健、笹木義友、右代啓視

舟山直治、三浦泰之

**会費納入のお願い**

本協会の円滑な運営のため、平成12年度の会費  
納入をお願いします。

団体会員15,000円、個人会員3,000円、賛助会  
員20,000円です。